

## 最近思うこと



函館市医師会  
函館中央病院

紺野 潤

皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は、今までに経験したことのないような台風が来て、それに伴う土砂崩れ等の災害に見舞われたり、ゲリラ豪雨も日常茶飯事で、何か気候が温暖化のためにおかしくなっていると思います。また北海道は9月に私の出身地である胆振東部地震があり、それに伴いブラックアウトという今までにないような事態に陥りました。われわれはどれほど電気に依存した生活をしてきたかと痛感するとともに、北海道の電力事情が分かり、また当院の自家発電等の有事の対応等大変勉強になった昨年でした。今年は、そのようなことのないように祈りたいと思います。

さて私事になるのですが、今年で5回目の年男を迎えました。医師になってからはアツという間という感じがします。思えば4回目の年男の時は、函館市医師会の新年交礼会で年男のスピーチをさせていただき、今回は北海道医師会からの「新春随想」のご依頼と、何かと年男の年は医師会と関係あるイベントがありご縁を感じます。昔還暦というと、「おじいさん、おばあさん」というイメージだったのですが、いざ自分になるといって実感湧きません。ただ、飛蚊症になったり、腰痛に悩まされたり、趣味のゴルフのドライバーが飛ばなくなったり、マラソン大会のタイムが年々遅くなったりと、そこそこの兆候はありますが、皆さんも同じだと思いますが年のせいにしたくない自分がいます。

そのようなわけで、若い気を出して私の専門科は消化器内科なのですが、今も若い頃と同じように外来、内視鏡等の検査、救急指定日の当番等をこなしたり、2年前には総合内科専門医を取得したりしています。その中の勉強で、最近のどの分野でも分子標的治療薬の進歩は凄まじいと思うとともに、ノーベル賞を受賞した免疫チェックポイント阻害剤などを含め、日本の医療経済はどうなるかと心配しています。

また最近感じることは、研修医の先生が自分の子供と同じくらいの先生が来るようになったり、まだ講演会は同年代の先生もいらっしゃるのですが、学会等で若い先生方が丁々発止やっている姿を見て、昔の自分と重ね合わせ、心の中でいつの間にか、そのような先生方に声援を送っている自分に気が付きました。それと同時に、この場にはもう不釣り合いになってきていると痛感しています。一生勉強とは思いますが、研修医をはじめ若い先生と

の、世代間ギャップに悩んでいる今日この頃です。まあジジ医は、あともうひと頑張りということでしょうか。それまで若い先生方に迷惑かけずやっていきたいと思います。

話は変わりますが、当地区のある函館消化器病懇談会について記したいと思います。当会は当地区の消化器病学の発展のために、昭和38年に函館胃カメラ懇談会として発足し、約半世紀の歴史がある会です。初代会長は橋元富一郎先生。2代目は田中修一先生。3代目は長野一雄先生。4代目が私なのですが、1年間で10数回の講演会、勉強会、学会発表等の活動をしています。函館は観光地という土地柄でしょうか、普通ではお話のできないご高名な先生が、時にはリピーターとしてご来函いただいています。これも先人の先生のご尽力のおかげと感謝しています。全道の先生の中にもご来函いただいた先生も多数いらっしゃると思いますが、お見知りおきを願います。

写真は、当会の30周年記念の機関誌です。そろそろ60年になるので、また作成しなくてはならないと思います。

最後に、このような執筆をさせていただいた北海道医師会の発展と、今年が良い年になることを祈念して筆を擱きたいと思います。

